

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第15号）
について（送付）

9月上旬のタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルスの保毒状況は前年と比べやや高く、屋外のコナジラミ類の誘殺数もやや多い傾向にあります。そのため、保毒虫数は前年より多いと推測されますので、トマト黄化葉巻病の発生には注意が必要です。特に、向こう1ヵ月の気象予報（福岡管区气象台10月18日発表）によると、今後の気温は平年より高いと見込まれることから保毒虫の野外での活動が長引くと予想されるので防除対策を徹底しましょう。

記

1 調査結果

- 1) 9月2日～9月9日に、冬春トマト栽培地域の屋外に設置したトマト苗トラップで捕獲したタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルスの保毒率は、平年よりやや高かった（表1）。
- 2) 冬春トマト栽培地域の屋外に設置後回収したトマト苗トラップの発病株数（12株中）は、玉名市が2株、熊本市が1株、八代市では発病を認めず平年並の発生であった（表2）。
- 3) 各栽培地域の農業普及・振興課が9月上旬から下旬にかけて調査した黄色粘着板によるコナジラミ類誘殺数は、各地域とも平年比やや多～並であった（図1）。

2 防除対策

気温が高いとタバココナジラミの野外での活動が続くため、今後も成虫の飛び込みに注意が必要です。

- 1) ハウスの開口部（サイド、谷部など）には目合いは0.4mm以下の防虫ネットを設置する。
- 2) ハウス内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
- 3) 野外から飛び込んだ保毒虫を施設内で定着させないため、11月までは成虫を主体とした薬剤防除を行う。
（注意：農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。）
- 4) ハウス内の発病株は二次伝染源となる。見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。
- 5) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- 6) 野良生えトマトは、重要な伝染源となるので適正に処分する。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
担当：児玉、荒木 TEL：096-248-6490

表1 冬春トマト栽培地域で採集したタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

| 地点名 | 保毒虫率 (%) | | | | | |
|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 本年 | 平24 | 平23 | 平22 | 平21 | 平年値 |
| 熊本市 | 2.8 (36) | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 0.0 | 1.2 |
| 玉名市 | 4.0 (50) | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 0.6 |
| 八代市 | 3.1 (32) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

注) 採集時期は、9月上旬(表2のトマト苗トラップ回収時)。
 ()内の数値は、本年の検定数。他年の検定数は、20~40頭。
 平年値は平成21年から平成24年の4カ年の平均。

表2 冬春トマト栽培地域に設置したトマト苗トラップのトマト黄化葉巻病発病状況

| 地点名 | 発病株数/供試株数 | | | | | |
|-----|-----------|------|------|------|------|--------|
| | 本年 | 平24 | 平23 | 平22 | 平21 | 平年値 |
| 熊本市 | 1/12 | 0/11 | 6/12 | 3/12 | 0/12 | 2.3/12 |
| 玉名市 | 2/12 | 1/12 | 1/12 | 3/11 | 0/12 | 1.3/12 |
| 八代市 | 0/12 | 0/12 | 2/12 | 0/11 | 1/12 | 0.8/12 |

注) 設置期間は、8月末前後からの1週間(本年は、9月2日~9月9日)。回収後、隔離温室で1ヶ月栽培し発病の有無を確認。平年値は、平成21年~平成24年の4カ年の平均。

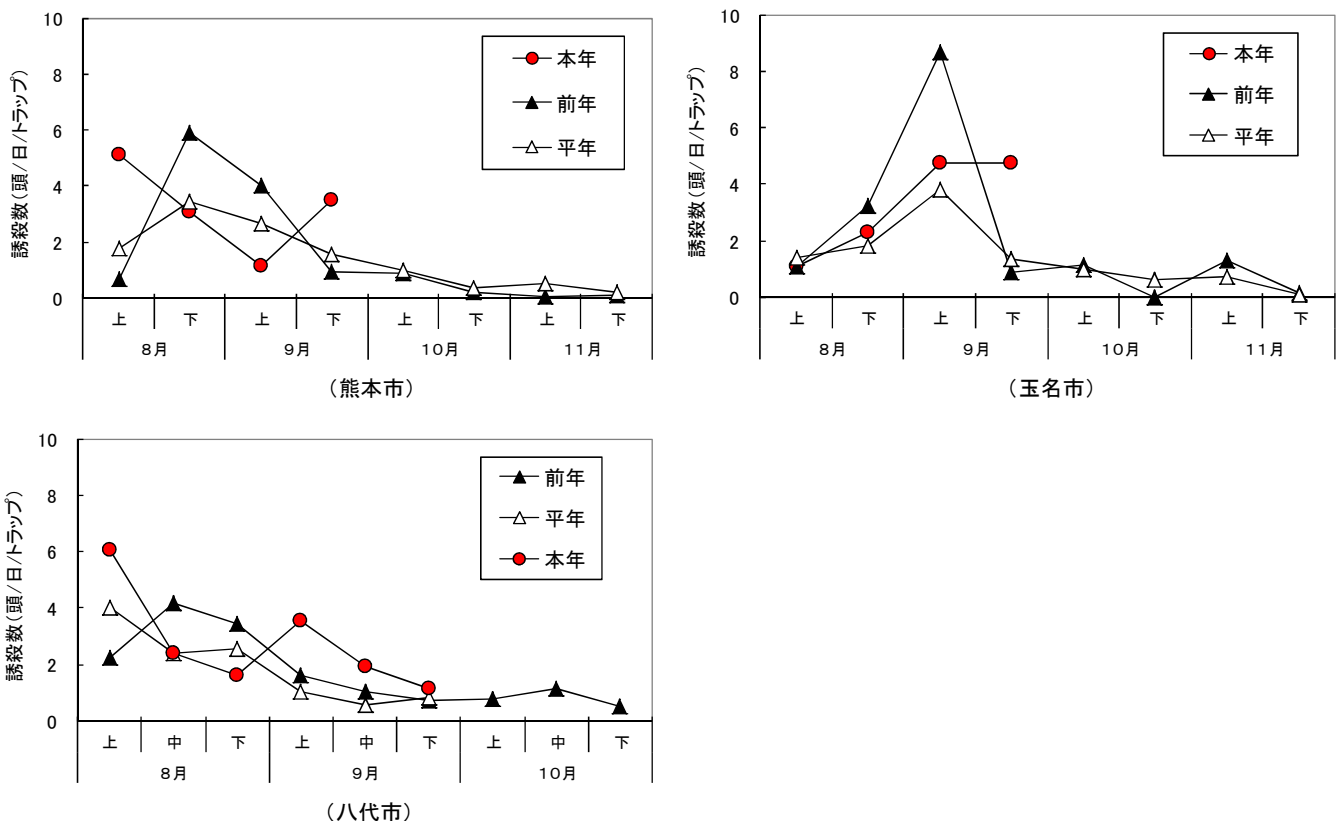


図1 平成25年度野外コナジラミ類の黄色粘着板による誘殺数(頭/日/トラップ)

注) 各地域農業普及・振興課の調査データから作成。

黄色粘着板(約10×約10cm)は、1地点当たり1~2枚設置。